

2012年度

調査実習概要報告書

1/3

2013年4月24日

開講科目

科目担当者氏名 (ふりがな) ほりごめよしひろ 堀籠義裕		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
連絡責任者氏名 (ふりがな) うさみせいじ 宇佐美誠史		科目設置機関名 岩手県立大学総合政策学部総合政策学科	
授業科目名 社会調査実習	科目認定番号 IWKa-121101-0	受講者数 8人 (科目全体では22人)	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：テーマ設定から報告書の作成までを全学生が行った。前半の調査実施以前の作業と、調査実施後のデータ分析および報告書作成の作業では、グループが機能していた一方、調査実施前後の作業（実施に向けた協力相手方への根回しをはじめ、日程・実施方法等の調整を要する作業）では、メンバー間の意思疎通が不十分であり、相手方にも迷惑をかけることとなった。調査実施に関しては大きな課題を残したが、調査を企画し、データを集めることの意義については、座学の講義よりも理解が深まったものと思われる。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：岩手県立大学の学生の外食に対する意識と行動に関する調査

2. 調査の内容/概要：外食に関する行動の実態調査に関する先行研究からこのテーマを着想した。この調査では、学生にとって外食が贅沢なものなのかどうかについて、外食に対するイメージと、外食に関する実際の行動との関連の側面から調査を行った。

3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：岩手県立大学総合政策学部1年生全員

4. 主な調査項目：性別、一人暮らしかどうか、サークル所属の有無、1回あたり平均サークル活動時間、アルバイトの有無、1回あたり平均アルバイト時間、1週間の外食頻度（回数）、住居から外食店へのアクセスの容易さ、1回あたり平均外食支出額、外食に対する意識（贅沢と思うかどうか）

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：必修科目の授業開始前に、学生が質問紙を配布し、その場で回収した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：実施時期：2012年12月14日、調査地：岩手県立大学、調査員数：8人

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：履修登録者119人中110人から有効回収があった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：学生の統計学の現有知識のレベルを踏まえ、本学部においてD科目認定を受けている「統計学II」までの範囲で、平均値の差の検定や、カイ自乗検定などの手法を主に用いた。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：調査対象の学生たちにとって、外食行動（外食の頻度、1回あたりの支出額）にかかわらず、外食は贅沢なものとして認識されている。しかし、今回の調査は対象が1年生のみであり、他の学年でも同じ結果が得られるのか、不明であり、結果の一般性の点では課題がある。

10. 報告書刊行の予定と概要：なし。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/)」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名 (ふりがな) ほりごめよしひろ 堀篁義裕		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
連絡責任者氏名 (ふりがな) うさみせいじ 宇佐美誠史		科目設置機関名 岩手県立大学総合政策学部総合政策学科	
授業科目名 社会調査実習	科目認定番号 IWKa-121101-0	受講者数 7 人 (科目全体では 22 人)	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：テーマ設定から報告書の作成までを全学生が行った。中間発表や報告書提出の際に、作業の中核的な役割を担っていたメンバーが所在不明となり、発表や提出に影響が出るなど、グループ全体としての作業状況の情報共有について、問題がいくつか発生した。調査を企画し、データを集めることの意義については、座学の講義よりも理解が深まったと思われるものの、グループ活動を円滑に進めること、およびグループの成果の完成度を更に高める自助努力の点で、やや大きな課題を残した。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：岩手県立大生の政治意識に関する調査
2. 調査の内容/概要：他大学の学生を対象とする政治意識調査の項目をもとに、政治に対する関心の度合いに影響する要因の調査を行った。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：岩手県立大学学部 1 年生から 4 年生。各学年がなるべく偏らない形で履修者が存在する一般教養科目を対象とした。
4. 主な調査項目：年齢、性別、政治への関心、政治に対するイメージ、政治に関する情報入手の主な手段、家族の政治参加の状況、身近な人と政治の話題をするかどうか、高校での政治系科目の履修状況

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：対象科目の授業終了時に、学生が質問紙を配布し、その場で回収した。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2012 年 12 月 6 日、岩手県立大学、7 人
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：当日の出席者 69 人から有効回収があった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：学生の統計学の現有知識のレベルを踏まえ、本学部において D 科目認定を受けている「統計学 II」までの範囲で、平均値の差の検定や、カイ自乗検定などの手法を用いた。
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：回答者の周囲の環境 (メディア利用、家族・友人の影響、高校の学習など) が政治意識に影響を与えるとの作業仮説を立てたものの、調査結果では、これらの影響がいずれもみられなかった。政治意識がこれら以外の要因の影響を受けている可能性や、設問設定上の課題に関して、考察を行った。
10. 報告書刊行の予定と概要：なし

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ず A4 サイズ 1 枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず (設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報を DB 化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名 (ふりがな) ほりごめよしひろ 堀篁義裕		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
連絡責任者氏名 (ふりがな) うさみせいじ 宇佐美誠史		科目設置機関名 岩手県立大学総合政策学部総合政策学科	
授業科目名 社会調査実習	科目認定番号 IWKa-121101-0	受講者数 7 人 (科目全体では 22 人)	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：テーマ設定から報告書の作成までを全学生が行った。メンバー個別では、社会調査法や統計学の知識に関してやや不十分な者も見受けられたものの、全ての作業においてチームワークが有効に機能していた。調査を企画し、データを集めることの意義については、座学の講義よりも理解が深まったものと思われる。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：大学生のアルバイトと生活に関する意識調査－岩手県立大学生の事例－
2. 調査の内容/概要：アルバイトとキャリア形成の関係について分析した先行研究をもとに、アルバイトが学生生活に与える影響（アルバイトで学生生活に悪影響が生じる要因）についての調査を着想した。
3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：岩手県立大学総合政策学部 1 年生全員
4. 主な調査項目：アルバイトの有無、1 週間の平均アルバイト時間、主な勤務時間帯、アルバイトの業種、講義の出席率（主観）、1 週間の勉強時間（授業以外）、平均睡眠時間、アルバイトで学業に悪影響が出ているかどうか

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：必修科目の授業開始時に、学生が質問紙を配布し、授業終了後にその場で回収した。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2012 年 12 月 7 日、調査地：岩手県立大学、調査員数：7 人
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：履修登録者 119 人中 107 人から有効回収があった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：学生の統計学の現有知識のレベルを踏まえ、本学部において D 科目認定を受けている「統計学 II」までの範囲で、平均値の差の検定や、カイ自乗検定などの手法を主に用いた。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：アルバイトは、授業出席率と睡眠時間には悪影響を与えるものの、自主学習時間には影響を与えないことがわかった。ただし、悪影響が出るかどうかのおよその境界が把握できなかったことや、1 年生対象であるための結果の一般性など、いくつかの課題も残された。
10. 報告書刊行の予定と概要：なし

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
2. 最上部の*印の箇所には数字を[*/*]には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。
3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ず A4 サイズ 1 枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報を DB 化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。